

砂防ニュース 第26号

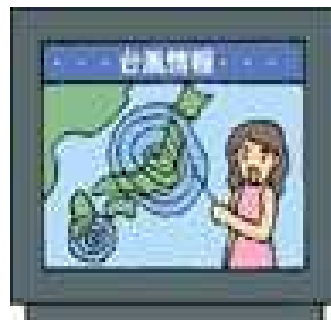
発行：新潟県土木部砂防課

発行日：平成20年8月22日

秋の長雨・台風に注意！

夏から秋への移行時には、夏の高気圧と大陸からの寒冷な高気圧の間に、いわゆる秋雨前線と呼ばれる停滞前線が生まれ、長雨をもたらします。また、この秋雨前線が停滞しているときに台風が接近すると、前線の活動が活発になり、大雨や集中豪雨になることがあります。昭和の時代、日本に大きな被害を与えた室戸台風や枕崎台風、伊勢湾台風も9月にやってきた台風です。

テレビやラジオなどの天気予報に注意して、大雨や台風に対する備えを早めにしましょう。



土砂災害に気をつけましょう

9月、10月と台風シーズンを迎えるにあたり、土砂災害の発生する危険性も高くなります。新潟県土木部砂防課では、新潟地方气象台と共同して、土砂災害から身を守るため、避難の判断基準となる情報として「土砂災害警戒情報」を公表しています。

また、「土砂災害警戒情報」を補足する情報として危険度情報などを「土砂災害警戒情報システム」によりインターネットで提供しています。

大雨の時には、気象情報や「土砂災害警戒情報システム」の情報に注意し、「土砂災害警戒情報」が発表されたら、早めの避難を心がけましょう。

《 土砂災害警戒情報システム 》

土砂災害警戒情報システム(上越市) 2022年8月24日 10時30分 現在
 土砂災害警戒情報システム 新潟県土木部砂防課 新潟地方气象台 共同提供

危険レベルに応じて、メッシュの色が異なります。色が付いたメッシュをクリックすると、グラフで危険度の高まりが表示されます。

土砂災害発生危険度判定の基準としている土壌潤湿指数(土壌中に貯まっている雨の量)の変化をみる事ができます。

▼土砂災害危険度判定図

危険レベルの高まり

土砂災害警戒危険度の推移です

1時間に降った雨の量です

現在時刻

3時間後予測値

2時間後予測値

1時間後予測値

2時間後には危険レベルになるな...

「土砂災害警戒情報システム」は以下のURLで見ることができます。

インターネットアドレス <http://doboku-bousai.pref.niigata.jp/sabou/>

携帯電話アドレス http://doboku-bousai.pref.niigata.jp/sabou_m/



～中越沖地震から1年～

昨年7月16日に発生した「中越沖地震」、柏崎市付近を中心に甚大な被害をもたらしました。あれから1年が経過し、地震により被災した箇所において対策工事が進んでいます。砂防課所管の事業としては、災害関連事業で地すべり3箇所、急傾斜地14箇所について対策を進めており、11月には全ての箇所ですべての工事が完了する予定です。

災害関連緊急地すべり対策事業 青海川地区



地震直後



現在

柏崎市青海川地区では、JR信越本線に隣接する急崖斜面で発生した地すべりなどにより、全壊7戸、半壊6戸の建物被害とともに、鉄道線路が埋まる被害が出ました。斜面对策として、法枠工・アンカー工・水抜ボーリング工を実施し斜面の安定を図りました。

災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業 番神二丁目地区



地震直後



現在

柏崎市番神二丁目地区では、柏崎港にほど近い住宅街で発生したがけ崩れにより、半壊1戸、一部損壊4戸の建物被害がでました。斜面对策として、法枠工・アンカー工・大型ブロック積工を実施し斜面の安定を図りました。

1年がたち、復興も進みつつあります。これからも地震に負けず、がんばりましょう！

「2008火山砂防フォーラム」が糸魚川で開催されます!

来る10月30日、31日に「2008火山砂防フォーラム」が糸魚川市で開催されます。

火山砂防フォーラムでは、火山をかかえる自治体が、防災体制の強化を目的として、火山噴火対策についての意見や情報の交換を行います。また、糸魚川市立上早川小学校5、6年生の新潟焼山についての学習成果発表もあります。地域の火山について知るまたとない機会になると思いますので、ぜひご参加ください。

1日目 「フォーラム」 平成20年10月30日(木) 糸魚川市民会館 大ホール

開場12:00 開演13:00 学習成果発表、パネルディスカッションほか 閉会予定17:00

2日目 「現地見学会」 平成20年10月31日(金) 新潟焼山周辺の砂防施設等

8:30糸魚川駅発 火打山川第1号ダム、月不見の池ほか 14:00糸魚川駅着

参加費: ¥7,000(フォーラム参加費・資料代) ¥3,000(現地見学費) ¥3,000(情報交換会費)

詳しくは、糸魚川市役所 建設産業部 建設課 025-552-1511まで



岩手・宮城内陸地震および岩手県沿岸北部の地震に職員を派遣

6月14日と7月24日、東北地方で、相次いで震度6強の地震が発生しました。新潟県は、土砂災害緊急調査のため、6月14日の岩手・宮城内陸地震では9名、7月24日の岩手県沿岸北部の地震では13名の職員を派遣しました。

6月14日の岩手・宮城内陸地震では、6月15日(日)~19日(木)の5日間、国、他県の職員などとともに、「土砂災害危険箇所点検緊急支援チーム」として、点検を実施しました。チーム全体では、震度5強以上を観測した地域の中で、土石流やがけ崩れ、地すべりなどの土砂災害の恐れ



危険箇所の点検状況

がある箇所(危険箇所)、1,700箇所の点検を行いました。

このうち、新潟県の派遣職員は、宮城県栗原市、岩手県奥州市で危険箇所151箇所について点検を実施しました。

調査箇所1,700箇所のうち、応急対策が必要な箇所は20箇所でした。その箇所では避難勧告を出したり、その後の降雨で被害が拡大しないように、ブルーシートで覆ったりするなどの対策がされました。

7月24日の岩手県沿岸北部の地震では、7月25日(金)

住民の方からお話を伺いました

~27日(日)の3日間、調査を行いました。今回の地震では、岩手・宮城内陸地震よりも危険箇所が少ない地域だったため、点検箇所も前回より少なく、派遣職員は、総危険箇所1,107箇所のうち、岩手県洋野(ひろの)町及び軽米(かるまい)町で、震度5強以上の危険箇所、82箇所について点検しました。

いずれの派遣でも、中越・中越沖地震での被災経験を活かした点検マニュアルが役立つとともに、地元住民の方に今後気をつける点などを伝えることができました。



市民活動・現場からのメッセージ

にいがた災害ボランティアネットワーク

4年前の7.13水害のとき、県内外からたくさんのボランティアが被災地に駆けつけてくれました。今回は、7.13水害をきっかけとして生まれた三条市のNPO（民間非営利組織）、にいがた災害ボランティアネットワークの本田さんにお話を伺いました。

Q. 発足の経緯を教えてください。

A. 2004年の7.13水害で、県内初の本格的ボランティア活動が行われた際、その後の反省会で「常設」で「専門」の災害ボランティア組織の必要性を感じ、災害NPOの設立が提案されました。しかし、同年10月に中越大震災が発生、中心メンバーも災害救援活動に参加したため、翌年の5月に任意団体として発足し、2006年の1月にNPO法人の認証を取得いたしました。



Q. どんなメンバーが、どんな活動をしているのですか？

A. 県内にとどまらず、災害救援活動に関わった市民・団体・災害ボランティア研修の様子企業・行政の方々がメンバーとして活動しています。私たちはこれまでに、7.13水害、中越大



震災、豪雪災害、長野県集中豪雨、能登半島地震、中越沖地震の際、新潟県災害ボランティア活動連絡協議会や県及び現地の社会福祉協議会と連携して、先遣隊の派遣や救援活動、ボランティア資機材の貸与などを行ってきました。この他に、平時の活動として、防災・災害ボランティアに関する様々な研修会・講習会を県内各地で開催しています。また、県内外の災害救援団体や市民団体と情報交換を行い、ネットワーク

長野県諏訪市でのボランティア活動 作りに努めています。

Q. 災害に対して、地域で普段からこういった備えをしておくべきだと考えますか？

A. 災害が発生すると、個人や家族の力だけでは限界があります。このような時、隣近所の人々の相互扶助が大きな力となります。

普段から災害に関心を持ち、自治会、町内会などのお祭りや催し物に積極的に参加し、顔の見える関係を築き、災害に強いコミュニティを作りましょう。

Q. みなさんへのメッセージを一言

A. 私たちと一緒に「地域の防災・災害ボランティア」活動に参加していただける、会員の募集も随時行っていますので、関心のある方のご連絡をお待ちしています。

ホームページ：<http://www.soiga.com/npo/nsvn/> 事務局 0256-35-5451



ご意見・ご感想・情報などをお寄せください。（次号は11月末発行予定）

〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1 新潟県土木部砂防課

TEL（直通）： 025-280-5424 FAX： 025-285-9724

E-メール： ngt080090@pref.niigata.lg.jp

ホームページ：<http://www.pref.niigata.lg.jp/sabo/index.html>

